

航行安全・海難防止情報

PILOT SAFETY NEWS

備讃瀬戸のこませ網について

内海水先人会 大泉 勝

当会の業務範囲は、東は大阪湾の神戸港沖合から西の関門海峡東口、豊後水道の関埼（大分県沖合）に囲まれた瀬戸内海全域に及びます。その中で、水先人は日夜、東から西へ、西から東へと大小各種船舶の水先要請を受け嚮導業務に従事しています。

瀬戸内海は昔から海上交通の要衝として栄え、近年では多くの臨海工業地帯が形成されてきました。美しい自然環境の下、多くの漁業資源を内包していることから、漁船による多様な操業に加え、韓国・中国・東南アジア諸国の経済発展に伴って当該諸国向けの各種船舶による運航過密化が生じ、航行水域が一

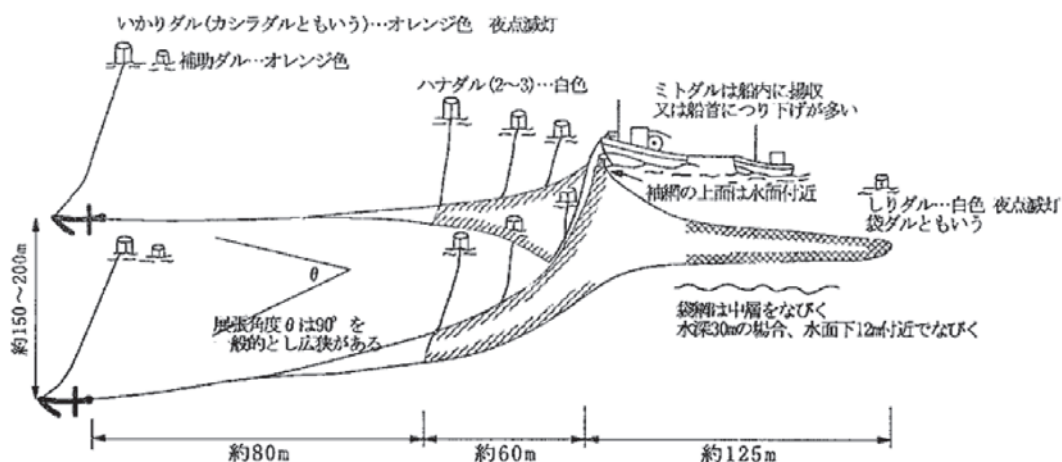


図1 こませ網漁業

段と輻輳する状況となっています。

とりわけ、備讃瀬戸における「こませ網」漁業（図1）については、その漁業の特殊性から過去様々な航行安全対策を立て、実施してきました。しかしながら、曲芸もどきの避航操船を余儀なくされる事態が再々発生するなど、備讃瀬戸海上交通センターの管制官も航路管制を行う上で、手に汗握る状態（担当水先人はもっと汗が出ています）が永年にわたり続いてきました。

昨今はコンプライアンスが声高に叫ばれる中で、例えば海上交通安全法で定められた航路航行義務を逸脱した行為により、万一海難事故等が発生した場合には、水先人の責任を問われることはもとより、全ての関係者に多大な迷惑が降りかかる事は自明の理です。

よって当会では、昨年来「こませ網」の操業により備讃瀬戸航路が閉塞状態になれば、安全航行の見地より巨大船であれば300m、その他の船舶で1Lの可航幅が確保できるまで航行を見合わせる等、海上交通安全法第4条の航路航行義務規定の遵守を柱とした安全対策を策定し、関係者の協力の下で実施してきました。その結果として、滞船が生じたため瀬戸内海に工場を持つ企業の操業に大きな影響を与え、本件が新聞報道される事態になりました。（図3）

本年も、昨年同様8月末まで上記の航行安全対策を実施しました。しかし航行環境は改善されず、一部海域においてはむしろ前年よりも厳しい状況となっており、対応に苦慮した事もありましたが、こませ網漁業に関わる海難事故はゼロとなっています。

① 運航調整件数

	平成22年	平成21年
大角沖投錨の後、翌日以降の備讃瀬戸入航	24	27
大角沖投錨の後、当日の備讃瀬戸入航	11	20
減速航行	10	15
三崎沖での調整	3	4
出港調整	10	7
迂回航行(北播磨航路、井島水道経由)	4	6
合計	62隻	79隻

② 水島港への入港経路（巨大船）

	平成22年	平成21年
和田→水島	159	194
関崎→水島	73	3
その他→水島	24	6
合計	256隻	203隻

こませ網漁業により影響を受けた船舶数を、昨年と本年と比較検証したのが前頁の表です。なお、一昨年以前の滞船状況は、例年1～2隻程度でした。

こませ網による運航調整実績

①の運航調整件数については、やや改善したと見受けられるものの、これは、②の水島港への入港経路（巨大船）で豊後水道を經由する巨大船が大幅に増加したことによるものと考えられます。この増加要因として考えられる事は、本年の新たな安全対策で比較的こませ網の影響が少ない備讃瀬戸北航路及び南航路を航行する西方経由の水島港入出港船に対し、こませ網の投網時機に関係なく常時航路航行を可能としたことにより、荷主は滞船のリスク軽減のため、豊後水道経由の運航計画を立てた事によると思われます。（紙面に限りがあるため、詳細についてはお問い合わせ下さい。）

また、隻数では改善が見られるものの、載貨トン数ベースでは依然として非効率的な運航を強いられています。これは、豊後水道経由であれば来島海峡の水深を勘案し、全長200m～250m未満の船舶は通航基準を喫水13.0m以下、250m以上の船舶は、喫水11.0m以下までとしているからです。一方、大阪湾経由であれば最大16.50mの喫水までが入港可能となります。

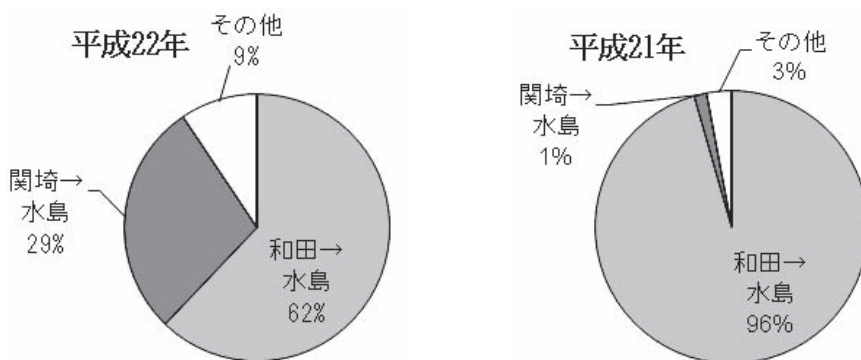


図2 水島港への入港経路の割合

今後、何時どのような形でこの「こませ網漁」の問題が解決するかは分かりませんが、官民一体となり、よりよい航行環境の整備と瀬戸内海臨海工業地帯の発展のため努力しているところであり、水先人の立場からも積極的に発言していきたいと考えております。

内海水先人は、この様な厳しい環境の中で「海難事故ゼロ」を目指し、嚮導業務に従事しているところです。

最後に、こませ網漁業に対する航行安全対策の結果、前頁に示す隻数の滞船

参 考

2艘引きによる「いかなご」漁

流し網による「さわら」漁

こませ網漁

[illegible]

図3 中国新聞朝刊（平成22年2月22日付）